京都御苑ニュース

秋

京都御苑百三十年
～源氏物語と京都御苑の森～

小沢　晴司

清和院御門から西方、土御門第跡を望む

土御門第

千年前、京都御苑のあたりは、平安京の中でも藤原氏や親王の邸地が並ぶ高級住宅地だったといわれます。鴨川の氾濫に由来する砂礫地で、湧水など地下水を得やすく大内裏も近い地の利ゆえかもしれません。

平安京建設当時の内裏は、御苑の森の中央に佇む今の御所より西方約一・五キロメートルの浄福寺通下立売の一帯にありました。

平安時代、内裏は、その宮殿を囲む壮麗な政庁建築群が展開する大内裏とともに、幾度も焼け落ち、そのたびに、時の帝の皇后の実家になる藤原氏の邸宅などが仮御所（里内裏）として使用されたといいます。一条帝中宮の彰子に紫式部が仕えた頃は、一条院が主に里内裏として使われました。

寛弘五年（一〇〇八年）、懐妊した彰子は出産のため一条院から土御門第に退出し、紫式部も彰子に従います。彰子の父藤原道長の邸宅土御門第は、今の京都御苑東部にあり、清和院御門を入った辺りの仙洞御所の一部を含む南北二町にわたって広がっていたと考えられています。

寛弘五年九月、彰子は後の後一条帝となる敦成親王を産み、十月、一条帝は一条院から土御門第に行幸し、中宮と我が子敦成親王に会います。

十一月一日、親王誕生五十日の祝いが土御門第で催されます。宴も進み、当代随一の文人であり左衛門府長官でもあった藤原公任が紫式部に声をかけてきたことを彼女は次のように日記に留めます。

「左衛門督、あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ　と、うかがひたまふ。源氏に似るべき人も見えたまはぬに、かの上はまいていかでものしたまはむと、聞きゐたり。

（藤原公任左衛門府長官が、このあたりに若紫はいないかと声をかけてきた。殿方の中に光源氏に似ている人もないのにどうして紫の上がここにいるかしらと聞き流した。）」

紫式部日記のこの条は、源氏物語の存在が示される最初の記録とされ源氏物語千年紀の由来となっています。

京都御苑管理事務所では、有識者の示唆等を得て、この春までに、御苑の森の歴史資源の中から、ゆかりの歴史を案内する駒札二十基を設けました。土御門第跡の駒札は、清和院御門から入り百メートルほどのところにあります。

枇杷殿

寛弘六年、一条院の焼亡に伴い一条帝は中宮彰子や紫式部を伴い枇杷殿へ遷幸します。元古代学協会理事長故角田文衛博士は、同時期、亡き定子皇后の遺児脩子内親王なども枇杷殿に住み、清少納言も内親王達に仕えている可能性があり、ここで紫式部と出会ったとの論を説かれました。別に、当時清少納言は隠居していて宮廷に出仕していないとの説もあります。

名邸枇杷殿は、藤原道長の所有のもと、三条帝の代に二度の内裏焼亡があった際、その里内裏として使われたといいます。

駒札は、皇宮警察京都護衛署前の梅林内にあります。

桜町

富小路広場一帯は、平安左京一条四坊十二町にあたり、南庭に桜が多く植えられていたことから「桜町」と呼ばれた紀貫之の邸宅があったとされています。この近辺には、「末摘花」の邸宅や「花散里」の屋敷など源氏物語に描かれる姫君の住まいがあったと想像されています。

今年初めの春、苑内に新設した駒札のうち平安時代に関係のあるものはこの桜町を含め以上の三基で、他の解説板の大半は幕末期の頃に関わるものです。今回のテーマではありませんが、徳川十三代将軍正室篤姫が養女として入った近衛邸の跡、十四代将軍に嫁いだ皇女和宮の生家橋本家跡などの駒札も苑内に設置しており、皆様の御遊覧をお待ち申し上げております。

源氏物語とアジア

源氏物語では、薫物合せの場だけでなく、祝いなどの儀式、源氏と姫君たちとの交流の瞬間でも、様々に香りのたつ様が描かれます。香木として使われる沈香は、東南アジアの熱帯林から伝えられたといいます。また、丁字は当時インドネシアのマルク諸島にのみ産しました。

これらの資源は、唐末の混乱以降、日中の公式国交にかわり盛んとなる南海貿易などにより日本にもたらされたと考えられています。

この貿易路を支える東南アジアの国々の情勢では、九六〇年、中国大陸沿岸主要都市に市舶司をおいて南海貿易の発展を進める宋朝が成立し、七世紀以降、室利仏逝（シュリーヴィジャヤ）王国がマラッカ海峡を中心とするマレー半島から西インドネシア一帯に勢力をもちます。ベトナム南部では、占城（チャンパ）王国が繁栄を築き、その他インドやジャワ等に興亡した各王国と、アラビア商人などの交易活動により南海貿易路は発展していったと想像されています。

長徳二年（九九六年）、紫式部の父藤原為時は、式部を伴い国司として越前国へ赴任します。前年宋人七十余人が若狭に漂着し、越前へ移されることとなっていました。為時の赴任中、宋人との交流の場ももたれたといいます。当時、越前敦賀は京に近い港として、渤海国との交易に続き宋との貿易でも博多ほか沿海諸都市の一つとして、宋人の往来があったようです。

長和四年（一〇一五年）、宋より京へ孔雀が届けられました。三条帝はこれを道長に下賜され、土御門第では暫くこれを育てていたことが御堂関白記に書かれています。

源氏物語は、アジアと交流し馥郁とした文化が醸成される当時の平安世界の中で描かれました。その雅を表す要素の沈香などは日本に産しません。日本文化は、アジアの環境がなくては成り立たないという事実に目を留めることも、現代に生きる私たちにとっては大切なことかもしれません。

拾翠亭

京都御苑南部にある九條池畔に茶室拾翠亭があり、その二階窓辺の板には丁字七宝の文様が透かし彫りで描かれています。

また、その庭には、中国宮廷（紫微）に植えられ好まれたというサルスベリ（紫薇）が幾株も大きく育っています。

藤原道長の末裔、藤氏嫡流家の一つ九條家の、京都御苑内にある遺構拾翠亭にみられるこれらのデザインが、源氏物語の頃からの記憶や故実に由来するものかどうかは定かではありません。

（京都御苑管理事務所長）

（参考）
古代学協会編集「平安京提要」、社団法人紫式部顕彰会「京都源氏物語地図」、角田文衛「平安京散策」、村井康彦「王朝の文化と和歌の世界」、朧谷壽「藤原道長」、今井源衛「紫式部」、畑正高「香三才」、永積昭「東南アジアの歴史」、河添房江「源氏物語と東アジア世界」、山本淳子「源氏物語の時代」ほか

南海貿易航路（ジャワ海）

南宋の首都臨安府がおかれた杭州市の西湖堤

拾翠亭の丁字の透かし彫り文様

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

自然はわれらを　われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881　京都市上京区京都御苑３番地
☎075-211-6364
財団法人　国民公園協会
京都御苑　木村博司

編集
㈱白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は再生紙を使用しています。

紅葉賀
王朝の昔に想いをはせて

片山　雅男

葉が小さく繊細なイロハモミジ

源氏物語は紅葉賀

今年は源氏千年紀。紫式部が源氏物語を著して一〇〇〇年目の年にあたる。数多くのイベントが催され、その縁の地を訪れる人も多い。ここ京都御苑もその一つであって、第七帖の紅葉賀では御所の清涼殿の前庭が舞台となっている。齢五十を迎える朱雀院の誕生日の式典に先立って、懐妊のために出られない藤壺を気遣って試楽が催された。思いを寄せる藤壺の前で、光源氏が頭の中将とともに紅葉を挿頭して舞楽「青海波」を舞う。十月の半ば、紅葉降り敷く中でのあでやかな催しである。

モミジとカエデ

京都御苑は隠れた紅葉の名所として人気が高い。モミジの名は、紅葉するという動詞の古語〝もみづ〟の名詞形とされる。かつては紅葉・黄葉する草木の葉は全てもみじと呼ばれたようだ。

御苑で最も多く見られるモミジはイロハモミジである。このモミジは京都周辺の里山に普通に見られ、社寺や民家の庭にも多く植えられている。小型の愛くるしい葉は七つに裂け、その裂片をイロハニホヘトと数えたためこの名があるとされるが、小さな葉では五裂のものも多い。別名、タカオカエデは、モミジの名所、洛西の高雄に因んだものであるが、東京の人は八王子の高尾山に因むと思い込んでいる人が多い。

なお、カエデの名の由来は、裂けた葉がカエルの掌のような形をしているところから〝カエルデ〟がカエデとなったという。十一月も半ばになると深紅に色づき、多くの人たちの賞賛の的となる。

明るい場所では真赤に紅葉

御苑のカエデたち

京都御苑にはイロハモミジによく似たカエデが他に二種類あって、その区別は難しい。イロハモミジは葉が小さく、縁の鋸歯は大きく、重鋸歯になっている。果実の翼が水平に開いているのも特徴的だ。

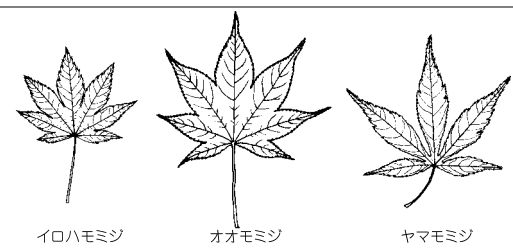
これに対して、オオモミジは葉がやや大きくて厚く、鋸歯は細かく揃った単鋸歯である。イロハモミジと違って成長速度が遅く、長寿命のものが多い。果実の翼が鈍角になっている傾向がある。イロハモミジが深紅に色づくのに対して、朱から橙色のものが多く、美しい。

ヤマモミジの葉もやや大きくて、変異が多く、区別の難しいものである。日本海側のオオモミジの生育しない場所に分布していて、葉は普通九裂し、ふぞろいの重鋸歯がある。

御苑にはこの他、わずかに三裂した小型の葉で、黄色く色づくことの多いウリカエデと光沢のある三浅裂した小型の葉で朱色に紅葉して美しい中国原産のトウカエデが見られる。

十一月半ば、紅や黄色に彩られた御苑の中に身をおいて、しばしの間、源氏物語に思いをはせて眺めてみるのもいいかもしれない。

（京都自然観察学習会）



京都御苑清掃作業に携わって

作業前

京都御苑には、来苑して頂いたお客様が安全で快適に過ごしていただけるよう、様々な仕事があります。

売店や飲食店のように、直接お客様と接するサービス業務の他に、自然教室などの催しを企画・実施したり、印刷物の発行などを行なう広報案内業務。苑内の異常や危険箇所の発見、苑内での禁止行為に対しての注意などを行なう巡視業務。

そして、直接お客様と接することは少ないが大切と考えているのが、庭園管理業務です。その中で、樹木の剪定、草刈り、砂利路の整地など、技術や力を必要とする作業は、主に男性職員が従事しており、女性職員は清掃作業に毎日従事しています。

清掃作業の内容は、トイレ掃除、紙屑などのゴミ拾い、苑路・外溝の落ち葉清掃及び除草、その他京都御苑を綺麗にする作業はたくさん有ります。

除草において、以前は早く雑草をなくすために作業性の良い灯油バーナーで雑草を焼いていましたが、今は温暖化（CO2削減）対策で、灯油バーナーは使用せず、すべて手で抜く根気と時間のかかる作業になり、苑路が緑色に見える部分もありますが、毎日黙々と作業を進めておりますのでご理解ください。

ここで、清掃職員のつぶやきを紹介します。タバコのポイ捨てに一言、携帯電話持つなら灰皿も。ペットの汚物を見て、犬の糞あんたの庭でもそのままで。

京都御苑は皆さんの公園です。近年は、外国からのお客様も多く来苑されております。

日本の国民公園として恥じない庭園造りに職員一同さらに努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

（財）国民公園協会　京都御苑　業務第一課主任　増田　敏弘）

作業後

手作業による外溝の除草　作業中

催事案内

■平成20年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で秋の自然を観察しましょう。

秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”

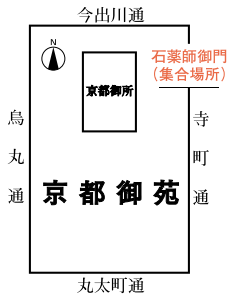
11月23日（日）　9:30〜12:00

主　催　環境省京都御苑管理事務所
（財）国民公園協会　京都御苑

指　導　京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

内　容　秋の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所　京都御苑　石薬師御門前
（上京区京都御苑内北東角・今出川広場前）



受付方法　当日、集合場所に9：30頃までにお集まり下さい。

参加費　無料

その他　筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

問い合わせ　京都御苑管理事務所　TEL 075(211)6348
（財）国民公園協会京都御苑　TEL 075(211)6364

＊以降自然教室予定
冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”
平成21年1月18日（日）　9：30〜12：00
集合場所　中立売北休憩所前

会員募集

財団法人国民公園協会　京都御苑

年会費

●普通会員　1,000円以上
●賛助会員（会社・団体）　10,000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。
（ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先

（財）国民公園協会　京都御苑
住所　京都市上京区京都御苑内
〒602-0881　TEL 075(211)6364

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
ミヤギノハギ	7月〜9月	清和院御門外、出水の小川付近
ヒガンバナ	9月〜10月	御苑内の各草地
サザンカ	11月〜2月	児童公園付近

京都御所・秋の一般公開

期間　11月12日(水)〜11月16日(日)　9：00〜15：30
（清所門の最終退出時刻　午後4時15分）
入口:宜秋門（ぎしゅうもん）　出口:清所門（せいしょもん）
問い合わせ先：宮内庁京都事務所　TEL：075(211)1211